

## 序

過去十数年を振り返ってみると技術の進歩などの影響を受けて、個々人の持つ技能が職業生活で役立たなくなることが多くなっていく。そして、中高年齢期になって経験のない、新しい職種についての職業訓練を受ける人々が増加している。このような状況から中高年齢者の訓練適応性の診断法や指導技法の開発に寄せられる期待が一段と高まっている。

この報告は訓練適応性検査の開発にかかわるものであり、検査の作成・実施を検討した「能力再開発訓練への訓練適応性検査の適用に関する一考察」（昭和58年度訓研調査研究資料第47号）の続報である。

本報は、先に開発した溶接系訓練適応性検査の予測的妥当性を検証している。つまり、6ヶ月の訓練課程において訓練開始時に実施した訓練適応性検査がそれに続く、各科目の訓練成績とどれほど関連するものかを検討したものである。

この結果により、この訓練適応性検査が訓練成績を予測できることが検証され、この検査がテスト課題、実施法、評価法を含めて妥当性があることが確認された。ゆえに、職業訓練への選抜の手段としても、訓練過程での個別指導の前提としての訓練生理解にも安心して活用できるとみてよい。

今後、訓練の現場での創意によってこの手法が活用され、多くの職種について訓練適応性検査が開発され、中高年齢者の訓練がより円滑に進められることを期待したい。

最後に、多忙な時間を割いて共同研究に参加いただいた埼玉技能開発センターの関係者の方々に深く謝意を表します。

昭和60年3月

職業訓練研究センター  
所長 多賀谷 敏夫

訓研調査研究資料 第58号  
溶接系訓練適応性検査の妥当性検証

発行 1985年3月

発行者 職業訓練研究センター  
所長 多賀谷 敏 夫  
〒229 神奈川県相模原市相原1960  
電話 0427-61-9911(代)

印刷 (有) 藤本総合印刷  
相模原市田名字首根上3039-30  
電話 0427-62-9501(代)